

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。  
Copyrighted materials of the authors.

## 研究会基本情報

2016 年度第 2 回研究会（通算第 8 回目）

日時：2017 年 3 月 10 日（金）13:00-17:20

場所：AA 研マルチメディア会議室(304)

国際シンポジウム “Language Documentation and Corpus Linguistics”

1. 塩原朝子（AA 研所員）

はじめに

2. Nicholas Evans（オーストラリア国立大学）

基調講演 “Do grammars do best what speakers did most: the Social Cognition Parallel Interview Corpus (SCOPIC) cross-linguistic corpus on social cognition in grammar”

3. Stefan Schnell（メルボルン大学）

“Conditions on object agreement and pronominalisation – a corpus-based typological study”

4. Sonja Riesberg（AA 研共同研究員，オーストラリア国立大学，ケルン大学）

“Cross-corpus annotation - a report from the ongoing Three Participant-Project”

5. I Wayan Arka（AA 研共同研究員，AA 研客員准教授，オーストラリア国立大学）

“On the pedagogical literacy for local (endangered) languages: lessons learned from Indonesia”

全員

ディスカッション

## 研究会の概要

今回の研究会は、基幹研究「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築（LingDy3）」、頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム「危機言語・少数言語を中心とする循環型調査研究のための機動的国際ネットワーク構築」との共催による国際シンポジウム “Language Documentation and Corpus Linguistics” の形で開催した。頭脳循環プロジェクトの連携先であるオーストラリアの CoEDL から本プロジェクトの共同研究員

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

**Copyrighted materials of the authors.**

2名を含む4名の研究者を招聘し、本プロジェクトが進めてきた言語ドキュメンテーション・データ収集の発展の方向性として考えられる、コーパス構築・コーパスを用いた文法研究、データの教育利用について各ゲストが発表を行った。